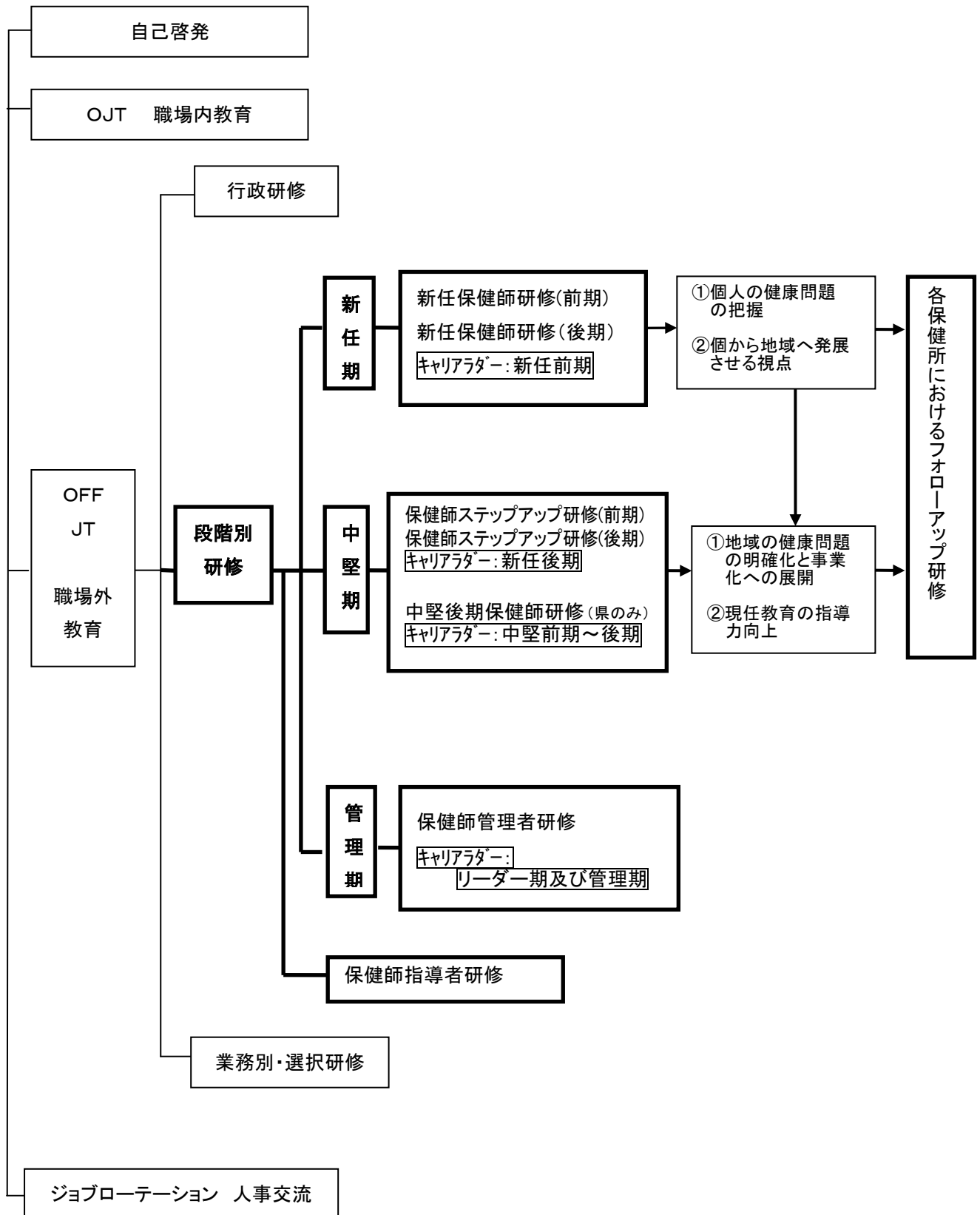


### Ⅲ 岐阜県保健師の現任教育体制



## 現任教育について

### 1 現任教育の実施体制

#### (1) 現任教育を支える組織体制

現場で現任教育を実施するには、組織全体で人を育てる意識と、人を育てるのに望ましい体制を整える事が必要である。

人を育てるためには、新任期保健師の指導を指導保健師に任せることなく、組織内の一人ひとりが人材育成の意識を持ち、組織全体で現任教育を行う意識が必要である。また、人を育てるのに望ましい体制とは、新任期保健師と指導保健師との関係を基本とし、指導保健師を統括的な立場から支援する統括保健師、その他の管理職や同じ立場から支援する同僚達が、組織全体で支え合う体制である。

このような意識や体制づくりが行われれば、新任期保健師や指導保健師のみならず、職場全体の資質向上、質の高い地域活動を行い、住民のニーズに応えることにつながるものと考えられる。

#### (2) 新任期保健師の配置

新任期保健師は、可能な限り保健師の課長職や係長職のもと、指導保健師を選任することが可能な、保健師が複数配置されている保健部門に配置されることが望ましい。指導保健師のもとで一定期間業務を経験し、地域保健活動の全体像を実感し、積極的に地域に出向き個別支援を実践できることが重要であり、特定の地区を担当することが望ましい。

なお、配置においては、指導保健師の適任者の存在や新任期保健師の教育背景、経験を考慮することも必要である。

#### (3) 指導保健師の配置

- ① 新任期保健師の指導は、新任1名に対し1名の指導保健師が担当することが望ましい。
- ② 指導保健師は新任期保健師の業務内容を日常的に把握でき、必要に応じてともに実践ができるように、担当する地区や業務を共有できる体制が望ましい。  
(例：母子保健業務 主担当＝指導保健師、副担当＝新任保健師 など)  
保健師の一人配置等により同部署内に保健師がいない場合には、専門的技術については他部署の保健師の支援を受ける体制づくりも必要である。
- ③ 新任期保健師の指導(準備から評価まで一連の過程を含む)にかかる業務量を考慮し、指導保健師が担当する業務には余裕を持たせておくことが望ましい。また、指導保健師を職場全体でサポートする体制が必要である。
- ④ 市町村においては、保健師が一人あるいは少数しか配置されていない場合など、指導保健師の確保が困難な場合には、指導保健師や統括保健師のサポーター役として、保健所が支援することが必要である。

#### (4) 現任教育担当者の配置

現任教育担当者は、指導保健師と新任保健師の育成・指導状況を常に把握し、必要に応じて指導保健師の相談にのる、指示を行うなどの役割がある。

所属の規模によっては、指導保健師、統括保健師のいずれかと同一人物になる場合もあり得る。

#### (5) 統括保健師の配置

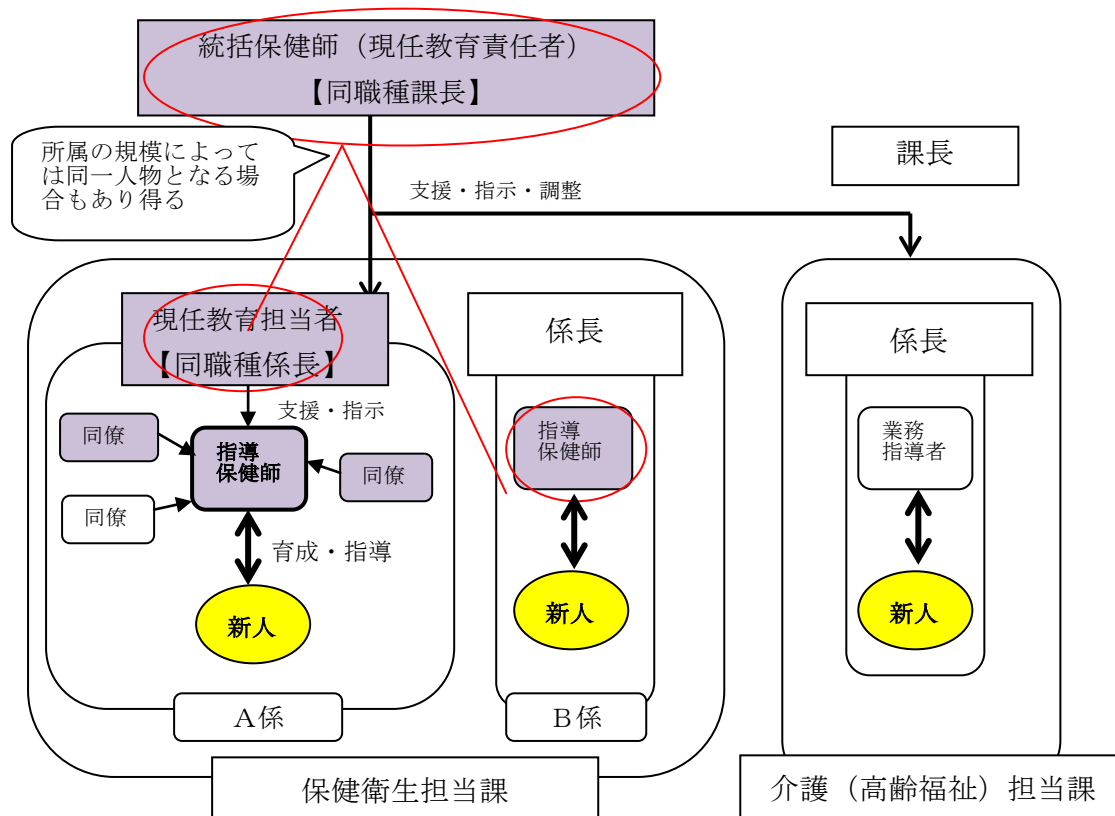
業務別分散配置における現任教育体制を構築するため、統括保健師を明確に位置づけ、所属部署を越えて組織内の保健師全体を把握した上で、指導保健師の配置や指導保健師への助言を行うとともに、人事担当部署との連携を図り、長期的な展望をもって人材育成を進めることが望ましい。

統括的保健師については、「管理者研修会」として平成23年度から実施してきた。今後も、保健師人材育成に係る総括として、各所属に応じた役割の明確化や、その必要性及び重要性を考えていく場づくりを開催していく。

#### (6) 教育機関との連携

学識経験豊かな教育機関の教員から、必要に応じて現任教育に対する助言及び指導を得るとともにOFF-JTや自己啓発の場として関係機関の研修会等を活用し、効果的な現任教育を推進する。

#### <組織における現任教育体制の例>



注) 色付け部分は、同職種(保健師)とする

## 2 現任教育の方法

現任教育については、「地域保健従事者の資質の向上に関する検討会報告書(平成15年3月)」による「自己啓発」「職場内研修(OJT)」「職場外研修(OFF-JT)」「ジョブローテーション」の4つを基本とする。

### (1) 自己啓発

自らの専門的能力を高めることは専門職として基本的な姿勢である。保健師一人ひとりが専門職としての自覚を持ち、自己の専門領域について学習を深めると同時に、調査・研究活動に取り組む努力を行うなど、専門的な知識や技術の向上を図る。

### (2) 職場内研修(OJT)

#### ① 所属内での集合研修

地域保健活動がチームで行われていることなどを配慮し、主として新任期保健師の配置された課が、所内関係課と連携・調整の上、ケースカンファレンス、事例検討会を計画的に実施する。実施にあたっては、統括保健師等を助言者として、日常的に個別支援能力等の専門的能力向上のための取り組みを行う。

業務分担制では、担当課・担当業務以外の制度等に関する情報も収集することが必要であり、計画的に研修会を開催し所属する組織の関連業務全体を把握できるよう配慮する。

#### ② プリセプターシップ

新任期保健師の能力に応じたきめ細やかな指導を行うため、新任期保健師が配属された部署の所属長や管理職等が指導保健師を選任し任命する。

指導保健師は、新任期保健師とペアを組み、一定期間内に指導目標が達成できるように、段階的な育成計画を策定し、日常業務を通じてマンツーマンの指導を行う。また、担当業務の指導については具体的な指導を行う必要があり、できる限り新たにその領域を担当する保健師ではなく、業務担当2年目以降の保健師であることが望ましい。

さらに、統括保健師や管理職等は、職場内で新任期保健師の育成に責任を持ち、現任教育を支える組織体制を整備する役割があり、効果的に到達目標を達成でき、指導保健師自身も成長できるように、指導保健師の支援を行う。

#### ③ 新任期保健師の他領域の業務の経験

管理職や統括保健師は、新任期保健師が配属された所属(市町村保健センター、保健所等)の業務の全体像を把握できるよう、また所内で開催される他の領域の事業(会議、研修、相談会等)へ参加できるよう調整し、関係課へ協力を依頼する。依頼された部署はできる限り協力する。

保健所においては、市町村支援機能が求められることから、市町村業務の実態を把握するためにも市町村活動を経験できる機会を積極的に設けることが重要である。

### **(3) 職場外研修(OFF-JT)**

職場外研修は、地域関係職員に必要とされる能力、知識及び技術の向上を図るための研修の場として職場を離れて実施し、集合研修の形態をとることが多い。主に地域全般に係る、より専門的な知識・技術を向上させる「専門的能力別研修」、各業務の遂行に必要な専門的な知識や技術及び新しい行政の課題等、選択的に対応する研修としての「業務別研修」、保健師として必要な基礎的能力の獲得を目指した「基本研修（保健師段階別研修）」等、県（保健所含む）が主催する研修と、厚生労働省や国立保健医療科学院が主催する国レベルでの「派遣研修」等がある。また、この他に、研究的視点の育成を目的に、県内外で開催される学会等への参加が含まれる。

各所属においては、保健師個人が主体的かつ計画的な研修の受講に努めるとともに、管理者は保健師を必要な研修に派遣する体制を整備する。

### **(4) ジョブローテーション**

計画的な人事異動や所属内の配置換えを通して人材育成を図ることを目指すものであり、一人ひとりの人材育成計画に沿って、様々な職務を経験させることで、個人の能力向上を図る。

なお、ローテーション（領域、期間）については、本人の希望や目標の達成状況を踏まえ検討していくが、中堅期に入るまでは対人サービスを通して個別支援能力の育成が図られるよう配慮する。

## 段階別保健師研修について

### 1 共通事項

#### 1 岐阜県における研修体制

県内全域の保健師を対象とする集合研修は、保健医療課が岐阜県立看護大学の協力を得て、研修の企画・運営・実施・評価を行う。

#### 2 保健所による研修の実施体制

小規模町村においては、統括保健師や指導保健師の確保が困難な場合があり、また新任保健師数や地理的な条件等を考慮すると、各所属における研修体制が整えられない場合がある。市においても新任保健師数が少数であれば、研修を通じて他市町村の新任保健師との情報交換も必要となるため、保健所が中心となり地域の実情に合わせた研修を効率的かつ効果的に実施する。

##### ① 保健所における研修の機能

地域保健の中心機関である保健所は、住民の健康増進や疾病予防を担う様々な領域の保健師等の人材育成を担うことが期待されており、領域ごとに担当者会議、研修会、ヒアリング等を実施している。

また、保健所は、研修に必要な地域の健康課題を分析するためのデータや、市町村支援のための管内市町村に関する情報も把握しているため、各領域の専門研修、地域の課題解決に向けた検討会、事例検討会の場についても保健所の人材育成研修であることを意識する。

##### ② 人材育成を推進していく保健所

県保健所は、管内市町村保健師が円滑に段階別研修を受講できるよう所属機関の調整を行うこと、各所属における現任教育担当者の相談に乗り、その解決と一緒に検討するなどの対応により人材育成を推進する。

人材育成研修の中心保健所である「岐阜保健所」は、これまでと同様に該当者が少数のためフォローアップ研修体制が整えられない他圏域の研修を受け入れ、実施する。また、保健医療課と情報を共有し、岐阜県立看護大学と共に県の現任教育体制整備の検討を行う。

なお、「岐阜保健所」において体制が整わない場合は、保健医療課から他の保健所に協力を求め調整する。

## 2 新任期の研修

### 1 新任保健師研修の実施

#### 【目的】

健康問題を持つ個人とその家族への支援ができる能力及び地域の健康問題を把握する能力を育成する。

#### 【目標】

- ①健康問題を持つ個人とその家族のニーズを判断し、適切な支援ができる。
- ②個人や家族の健康問題の背景を考察することにより、地域の健康問題の推測ができる。

【対象】 県及び市町村の新規採用保健師

【時期】 前期研修：採用後4ヶ月時点（7月）  
→社会人として職場環境に慣れ保健活動へも目が向いてくる時期  
フォローアップ研修：前期研修から後期研修までの間（11～12月）  
→保健所が実施し指導者の参加も求める。  
後期研修：採用後11ヶ月時点（2月）  
→保健師として採用され1年が経過しようとしている時期

#### 【内容】

##### <前期研修>

- ① 事前に作成したレポートをもとにグループ内で事例検討を実施
  - レポート1・・・「健康課題を持つ個人及び家族への支援と課題」  
～家庭訪問による援助を通して～
  - レポート2・・・「実践活動を通じた地域の健康問題の把握について」
- ② 講義「新任期に求められる能力」

##### <各保健所におけるフォローアップ研修>

新任期研修の中間時期に保健所管内における研修の場を設けることにより、事例を適切に捉える力の向上を図ると共に、近隣自治体に採用された新任保健師同士の交流を深める機会とする。

##### 保健所におけるフォローアップ研修の実施要領

（研修の目的）

前期研修から後期研修までの間に、前期研修のフォローアップを実施することにより、個別事例の支援状況を検討し、事例を適切に捉える力の向上を図るとともに、近隣自治体に採用された新任者同士で新任保健師の課題や悩みを共有し今後の解決へとつなぐことを目的とする。

また、指導的立場の保健師の参加により、新人育成の実際や問題点を共有し、よりよい新人育成について考える機会とする。

(実施主体)

各保健所（対象者数により圏域での開催）

(対象)

管内の新任保健師の実情（実践能力状況等）により、研修対象者を1年目のみでなく3年目までの新任保健師を対象とする。

(内容の例)

- ・個別事例の支援状況を検討
- ・新任保健師による情報交換
- ・新任保健師実践能力到達目標チェックシートの活用に関する検討
- ・指導保健師の情報交換、現任教育に関する検討など

### <後期研修>

- ・前期研修での学びや課題をふまえ実践活動を行い、その援助結果と援助からの考察
- ・事例の援助や日常の保健活動から捉えた地域の健康問題として気づいたことの確認

### ※全期をととしたグループワークの進め方

- ・グループの人数は個別事例の検討時間が十分確保できる5名とし、新任保健師が他の管内市町村や他業務の状況を知ることができるよう、可能な限り地域や担当業務を別にする。
- ・助言者として、各グループに大学教員と保健所担当者の両者が入ることとする。
- ・グループメンバー及び助言者は、前期・後期を通した指導体制とする。
- ・保健所担当者は、管内市町村の対象者がいるグループを担当する。
- ・保健所担当者は、管内市町村等の新任保健師の現状や課題を把握し現任教育や市町村支援に役立てる。
- ・受講者は進行及び記録等の役割分担を行い、積極的に意見交換等を行う。
- ・助言者は、適宜助言を行う。

### 指導者の役割

#### ■前期研修でおさえること

- ①個人及び家族の健康問題の把握ができたか
- ②把握した健康問題への援助方針、援助方法は適切か
- ③今後の援助計画や見通しを立てられたか
- ④既存データや個人及び家族の健康問題の背景、日常の保健活動で気づいたことから、地域の健康課題を考察・推測することができたか

#### ■後期研修でおさえること

- ①個人及び家族の健康問題は家庭訪問等の援助により、どのように解決することができたか（援助の効果）
- ②援助における今後の課題は何か
- ③既存データ、個人及び家族の健康問題及び日常の保健活動の中などから、地域の健康課題を推測することができたか



## 2 新任保健師実践能力到達目標

岐阜県では、岐阜県立看護大学（地域看護学領域）と共同し、採用1年目の保健師の実践能力について、平成19年度及び20年度の新任保健師研修会参加者のアンケート調査により把握・分析し、採用1年目保健師の実践能力到達目標を設定した。

また、平成21年度に保健所及び市町村の指導保健師から「新任期保健師に対する指導の現状や課題等」を意見聴取し、「岐阜県新任保健師実践能力到達目標チェックシート（以下、チェックシートとする。）を作成した。

本チェックシートは、新任保健師の実践能力の向上や指導保健師の指導に活用しつつ、今後の現任教育のあり方を考えていく資料とする。そのため、必要に応じチェックシートの見直しを行っていくこととする。（チェックシートは、50ページ参照）

なお、1年目に到達できなかった項目については、新任期にある保健師の実情に合わせた指導をおこない、新任期3年間に全ての項目の到達を目指す。

### 【確認時期】

- ・ 新任保健師研修終了後の、4ヶ月時点及び11ヶ月時点
- ・ 11ヶ月時点において未達成の項目については、概ね半年ごとに確認を行う。

### 【チェックシートの意図】

新任保健師の実践能力を向上させるために、

- ・ 「どの時期にこういった内容ができているとよいか」
- ・ 「達成するにはこういった経験をさせると良いか」

新任保健師の育成指導の視点としてチェックシートを活用する。

### 【到達度確認のねらい】

本チェックシートを使用して到達度を確認することにより、

- ・ 新任保健師の実践能力の評価の参考とする
- ・ 新任保健師と指導保健師が保健活動についてコミュニケーションを図る
- ・ 各所属における現任教育のあり方を考える機会とする

そのためには、記入にあたり新任保健師と指導保健師が一緒に相談する機会を持ち、お互いに到達度を確認し共有する。

### 【評価基準】

主観的な目標項目であり個人差もあるため、判断基準を統一することは難しい。それぞれの新任保健師の状況により、指導保健師（場合によっては統括保健師も含む）と新任保健師が話し合って判断することが必要である。

このチェックシートは他の新任者と比べて評価するのではなく、

- ・ 「新任保健師自身がどれだけ成長しているかを確認するため」
- ・ 「本人の成長を支援するため」

に活用するものとする。

### 【到達目標について】

それぞれの新任者の性格、学び方、体験の仕方などで、「できている項目」「苦手とする項目」が違ってくると考えられ、1年間に全項目を到達することは難しいと思われるが、新人の成長の状況を確認しながら、

- ・ 「どの大項目を優先順位として達成できるようにするか」

- ・「そのためにはどのような体験をさせるとよいか」  
新任者の状況に合わせて所属内で検討していくこととする。

### <岐阜県新任保健師研修の流れ>

時 期	保健医療課	保健所	所 属	
			受講者	指導者
5 月	受講生募集・研修通知 事前レポート・後期レポート 作成依頼	市町村支援 (保健所実習指導者研修)	事前レポート作成 ↓	保健師活動実践期間(家庭訪問等) 職場での現任教育 助言・指導(コメント記入)
6 月				
7 月	4 カ月チェックシート依頼  事前レポート受理		事前レポート提出	
7 月～8 月	<b>前期研修(集合研修)</b>			
8 月			4 カ月チェック実施 報告	
9 月	4 カ月チェックまとめ・報告	フォローアップ研修の調整と 通知 中間レポートの依頼		
10 月		中間レポート受理	中間レポート 提出	
11 月～12 月		<b>フォローアップ研修 (圏域等の保健所で実施)</b>		
1 月	11 カ月チェックシート依頼 後期レポート受理		後期レポート作成	
2 月	<b>後期研修(集合研修)</b>			
			11 カ月チェック実施・報告	
3 月	実績報告受理 11 カ月チェックまとめ・報告	実績報告提出		

<前期研修スケジュール・ねらい等>

	時間等	会場	方法等	ねらい
1 日 目	9:30～9:50	講義室 →演習室へ	■オリエンテーション（スケジュール・ねらい等） ・スタッフ紹介	
	9:50～10:50	各演習室	■グループワーク① 『職務遂行における新任者の課題』 ・仕事をしている上での困りごとや悩み、問題や課題と考えていることなどをグループで自由に話す	・各々が持つ問題や課題の表出と自己認識ができる ・共通点の共有と相互理解を図り親睦を深める
	10:50～16:00	各演習室  →講義室へ	■グループワーク② 『健康課題を持つ個人及び家族への支援と課題～家庭訪問による援助を通して～』【レポート1】 ・順に事例紹介を行い、事例の問題、課題の整理と今後の支援についてグループで意見交換する	・事例提出者は、事例の課題を整理し今後の支援計画を立てることができる ・メンバーは自分のこととして事例への対応を考察し意見を述べるとともに、今後の対応に反映できる
	16:00～16:30	講義室	■講義『新任期に求められる能力』	
2 日 目	9:30～10:30	各演習室	■グループワーク② の続き	
	10:30～12:15	各演習室	■グループワーク③ 『実践活動を通じた地域の健康問題の把握』【レポート2】 ・順に地域紹介を行い、個別事例や日々の活動を通して把握した地域の健康問題についてグループで意見交換する	・個別の問題や課題の背景から、地域の健康問題として発展して考えることができる ・グループワークの学びを後期の研修につなげる
	12:15～13:00	(昼食)		
	13:00～14:00	各演習室	■個人ワーク 事例の課題、地域の健康問題、グループワークでの学びのまとめ ・グループワーク②③での学びを活かして、個人で事例の課題、地域の健康問題を整理し記録する	・意見交換や助言を経て、改めて自分の考えを整理し実践計画をたてる ことができる
	14:00～14:40	各演習室  → 講義室へ	■個別発表：個人ワークの概要や研修で学んだことをグループ内で発表 ・順に個人ワークでまとめた概要をグループ内で発表する ・研修で学んだこと、今後の課題や目標をグループ内で発表する	・メンバーのまとめを共有する ・個人ワークの学びを後期の研修につなげる ・メンバーの学びを共有する
	14:40～14:50	(休憩・移動)		
	14:50～15:30	講義室 105	■全体発表 ・2日間の研修で学んだこと等を、各グループの代表が全体に発表する	・各グループでの学びを共有する ・本研修の学びを後期の研修につなげる
	15:30～16:00	講義室 105	■チェックシートの説明、記入 「新任保健師の実践能力到達目標チェックシート」の活用について	

※2日目 16:00~17:00 指導保健師のミーティングを実施  
 <後期研修スケジュール・ねらい等>

時間等	会場	方法等	ねらい
9:30~ 9:40	講義室105	■オリエンテーション ・本日のスケジュール・ねらい・前回の振り返り等。	
<b>(各演習室へ移動)</b>			
9:45~12:25	各演習室	■グループワーク① 『健康課題を持つ個人及び家族への支援と課題 ~家庭訪問による援助を通して~』  ・事例への支援の実際や解決できた内容、残っている課題等について発表する。 ・課題とその解決策について、グループで意見交換する。 (1事例あたり30分程度)	・健康課題に対しての支援の展開についての考察を深める。 ・他のメンバーの事例への関わりを共に考えることにより、支援の幅を広げる。
<b>12:25~13:10 (昼食)</b>			
13:10~15:15	各演習室	■グループワーク② 『地域の健康課題の把握について、実際の活動から得たこと』  ・個別支援や日常の保健活動の中から捉えた地域の健康課題、その裏付けとなるデータ収集を行ったことで気づいた健康課題や見えてきたことを、グループで意見交換する。 (1人25分程度)	・日常の保健活動から地域の健康課題を捉えることと、今後の展開について考察ができる
15:15~15:40	各演習室	■個人ワーク 事例の課題、地域の健康課題、グループワークでの学びのまとめ  ・グループワーク①②での学びを活かして、個人で事例の課題、地域の健康課題を整理し記録する。 ・前期、後期の研修を通しての学びと今後の自己課題についてまとめる。	・意見交換や助言を経て、改めて自分の考えを整理し、今後の保健活動の自己課題を明らかにすることができる。
<b>(講義室へ移動)</b>			
15:45~16:15	講義室105	■全体発表・まとめ  ・前期、後期の研修での学び、今後課題としたいこと、感想などについて発表する。 (1グループ1人)	・他のメンバーの学びを共有する。 ・本研修の学びを今後の保健活動につなげる。
16:15~16:30	講義室105	■チェックシートの記載方法について説明	

※16:30~17:15 指導保健師のミーティング (演習室104)

## 参考

### 前期研修で使用するレポートについて

下記により「レポート1」及び「レポート2」を作成し、期限までに提出してください。

#### ■レポート1の作成について

○レポート1は、グループワーク「健康問題を持つ個人及び家族への支援と課題」において使用しますので、下記により作成してください。

所 属	受講者氏名
1. 対象者の概要 ※性別、年齢、家族構成など対象世帯の全体像がわかるように記入すること ※住所、氏名、生年月日などの <u>個人が特定できる内容は記入しないこと</u>	
2. これまでの援助経過 ※・家庭訪問等の援助場面で新任保健師が実施したことや判断したことを記載する ・前任者等他保健師、多職種の行なった援助についても、新任保健師が判断したことを記載する	
3. 援助をしていく上で困っていることや事例検討にとりあげた理由	
4. グループワークで検討したいこと	
【指導者のコメント】 ※受講者が個別事例への支援をするにあたり、職場で行った助言等を記入してください。  指導保健師名 _____	

○健康問題を持つ個人への支援のあり方や方法について、家庭訪問等で個別援助をしている事例から選定してください。ここでのグループワークは、処遇困難事例を検討する場ではなく新任保健師がどのような支援をしているか振り返り、学びを深めることを目的としています。新任保健師が主体的に関わった事例の選定をお願いします。

○レポートの最後に、指導保健師によるコメント及び指導者名を必ず記入してください。指導保健師はレポート内容を確認のうえ上記記入願います。

#### ■レポート2の作成について（A4用紙2枚以内）

○レポート2は、グループワーク「実践活動を通じた地域の健康問題の把握について」において使用しますので、下記により作成してください。（所属と氏名を忘れず記入すること）

- |  |
|--|
| 1. 今あなたが捉えている地域の状況（地域の概況、特徴、健康問題など）<br>※地域紹介をするようなつもりで、まとめてください。 |
| 2. 今後把握したい地域の状況  |

○レポートの最後に、指導保健師によるコメント及び指導者名を必ず記入してください。コメントの内容は、地域の健康課題を捉えるために行った助言等を記入してください。

提出期限：平成 年 月 日（ ）

提出先：保健医療課 担当者 宛 ※必ず電子メールで送付のこと

## 後期研修で使用するレポートについて

### ■レポートの内容について

- ・以下の各項目の内容について、各自レポートを作成してください。事例は、前期研修と別の事例でも構いません。

- 1 個人事例の支援について
  - ①事例の概要
  - ②事例(個人及び家族)の健康課題(アセスメント内容を含める)
  - ③援助目標
  - ④援助の実際・判断
  - ⑤相手の反応・支援の評価
  - ⑥今後の課題
- 2 個別事例への支援から学んだこと(対象のとらえ方、次の事例へ活かすこと等)
- 3 個別事例への支援や担当する業務などの保健活動から、地域の健康課題として気付いたことや把握したこと (漠然としたものでも構いません)
  - ※家庭訪問による個別事例に限らず日常の保健活動を通して、気づいたこと、把握した健康課題等について、レポートしてください。
  - ※受け持ち地区の特徴と健康課題との関係などについて、また気づいたことを裏づけするために調べたことなどがあつた場合についても考察してください。
- 4 上記「3」に関連するデータや情報 (健康課題の根拠となるデータや情報)
  - ※データの羅列にならないよう、上記「3」に関連性の深いものを選んで提示してください。
  - ※前期研修でのグループのレポート綴りを持参し後期研修当日にも参考としますので、この欄に示したいデータが前期研修レポート②と重複する場合は、ここに再記載せず前期レポートを使用して説明していただいで構いません。
  - ※提示したデータに、上記「3」にあげた気づきや考察につながる部分を示すなど、グループワークで共有しやすい資料を作成してください。

- ・個人や家族などを特定できないよう、個人情報保護に注意して記載してください。住所、氏名、生年月日等を記載しないだけでなく、他の情報からも個人が特定することができないような注意が必要です。
- ・レポートをもとにグループワークを行います。意見交換も含めて1事例30分程度です。この時間内で検討できるよう、レポート内容は要領よくまとめてください。
- ・レポートの他、グループワークで参考になる資料がある場合は添付してください。

### ■指導保健師からのコメントについて

- ・レポート内容にあたっては、指導保健師(又は上司の保健師)の助言を受けてください。
- ・指導保健師はどのような助言を行ったかを、レポートの最後に記入してください。

#### 指導・助言

- ①受講者が個別事例への支援を実施するにあたりおこなった助言
- ②地域の健康課題を捉えるためにおこなった助言

指導担当者氏名: \_\_\_\_\_

2 ページ目に続きます



■レポート様式等について

・下記様式を参考に、レポートを作成してください。(用紙サイズ : A4サイズ)

市町村名または保健所名	〇〇町
所属部署	〇〇〇〇課 〇〇〇〇係
受講者氏名	〇〇〇〇
事例について (右記のどちらかに○をつける)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期と同様の事例</li> <li>・前期と別の事例</li> </ul> (変更理由: )

1 個別事例の支援について

レポート内容を記入(別記参照)

2

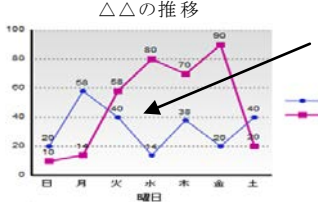
3

4 健康課題に関連するデータや情報

〇〇に関するアンケート結果

	H〇年	H□年	H◇年	H△年
A	〇〇.〇	〇〇.〇	〇〇.〇	〇〇.〇
B	△△.△	△△.△	△△.△	△△.△

左記より、Aについて年々増加傾向が見られるため、〇〇に対する～～が必要と考えられる。



△△の推移

H〇年からCとDが逆転している。△△の影響なども考えられる

データに、気づきや考察のコメントを入れるなど、見やすさにも工夫してみると良いでしょう。

指導・助言

指導保健師のコメントを記入(別記参照)

指導担当者氏名: \_\_\_\_\_

・提出の際は、レポートのファイル名を 「後期レポ\_〇〇〇〇」 としてください。

氏名を記入

■提出期限及び提出先

・提出期限：平成 年 月 日( )

・提出先：保健医療課 担当者 宛

保健所フォローアップ研修で使用する中間レポートについて

フォローアップ研修で使用する中間レポートについては、後期研修で使用するレポートを準用する。

### 3 中堅期の研修（ステップアップ研修）

#### 1 ステップアップ研修の特徴

「岐阜県保健師のキャリアラダー2」＜専門職としての能力＞の中でも「地域診断能力」「計画・立案・実施・評価能力」をターゲットとした内容としており、研修の中で保健事業の計画から実施及び評価を行うため、2年間の研修期間としている。

中堅期は、就職後数年で退職する者、育児休業中である者などにより受講者が少なくなる傾向があり、同様に後期のステップアップ研修を受講できない者がある。

中堅期は、保健師としても指導保健師としても力量をつける必要があるため、採用後5年目を対象とするが、すべての希望者が受講できるように年数を考慮する等の配慮が必要である。

#### 2 ステップアップ研修の実施

##### 【目的】

地域の健康課題や健康に係るニーズを明確化し、それに基づいた保健事業を計画立案・実施・評価できる能力の向上を目指す。

##### 【目標】

- ① 日常の保健活動を通して、地域の健康課題を推測し、その根拠となる地域の実態を集積・分析し健康課題を明確にすることができる。（前期）
- ② 地域の健康課題にあった保健事業の計画立案・実施・評価ができる。（後期）

##### 【対象】

前期：採用後5年目の県及び市町村保健師（ただし、育児休業取得等の場合は「採用後5年」に限らない）  
後期：前期及び圏域でのフォローアップ研修を受講した保健師

##### 【時期】

事業計画の立案・実施・評価する研修を実施するため、研修期間は2年間とする。

##### 【内容】

###### <前期研修:9月>

- ① 事前に作成したレポートをもとにグループ内で事例検討を実施
  - ・テーマ：地域の健康課題、健康に関わるニーズの把握と保健活動の展開について
- ② 個人ワーク 次年度の事業計画の立案に向けて課題整理

###### <保健所フォローアップ研修の実施:2月>

- ・中間レポートをもとに、来年度事業実施に向けた計画になっているかを確認

###### 保健所におけるフォローアップ研修の実施要領

(研修の目的)

地域の健康課題や健康に係わるニーズを明確にし、それに基づいた保健事業を計画立案・実施・評価できる能力を向上させる。



また、指導者は受講者の指導を通じて指導方法について振り返り、実践現場での指導をより深める機会とする。

(実施主体)

各保健所

(内容)

中間レポートを基に、来年度事業実施に向けた計画になっているか確認する。

- ・受講者の事業計画策定後のフォローを行うとともに、職場での現任教育等の指導方法について振り返り、実践現場での指導をより深める機会とする。

(対象)

保健師ステップアップ研修会（前期）を受講した保健師とその指導保健師

### ＜後期研修:翌年度2月＞

- ・テーマ：地域の健康に係わるニーズの保健事業化とその評価について  
～実施した保健事業とその評価～

#### ※全期をとおしたグループワークの進め方

- ・グループの人数は個別事例の検討時間が十分確保できる4名とし、受講保健師が他の管内市町村や他業務の状況を知ることができるよう、可能な限り地域や担当業務を別にする。
- ・助言者として、各グループに大学教員と保健所担当者の両者が入ることとする。
- ・グループメンバー及び助言者は、前期・後期を通じた指導体制とする。
- ・保健所担当者は、管内市町村の対象者がいるグループを担当する。
- ・保健所担当者は、管内市町村等の保健師の現状や課題を把握し現任教育や市町村支援に役立てる。
- ・受講者は進行及び記録等の役割分担を行い、積極的に意見交換等を行う。
- ・助言者は、適宜助言を行う。

#### 指導者の役割

##### ■前期研修でおさえること

- ①解決したい健康課題は何か。
- ②地域の健康課題に即した保健事業の展開になっているか。
- ③地域のヘルスニーズは、日々の家庭訪問活動・健康相談及び健康教育、様々な地域活動などの保健活動から情報を用いているか。

##### ■後期研修でおさえること

- ①地域の健康課題や健康ニーズに沿った保健事業の展開になっているか。
- ②「計画～実践～評価の過程の評価」等の過程を振り返ることができたか。
- ③日常的な業務の中で、データの重要性、データ収集、分析の必要性、観察の視点を意識して考えることができたか。
- ④前期研修 フォローアップ研修での学び 助言・指導は生かされているか

### **3 5年目保健師実践能力到達目標**

5年目保健師の実践能力について、岐阜県立看護大学(地域看護学領域)と共同し、平成26年度のステップアップ研修参加者へのアンケート調査等により実践経験を把握分析し、5年目保健師の実践能力到達目標を検討し設定した。平成27年度にはステップアップ研修受講者に暫定版によるチェック、指導者からの意見聴取を行い「5年目保健師実践能力到達目標チェックシート(以下「5年目チェックシート」)」を作成した。(チェックシートは、56ページ参照)

#### **【チェックシートの概要】**

ねらい：保健師の実践能力の向上

対象：5年程度の経験を持つ保健師(経験年数が5年程度でありステップアップ研修を受講した者。)

活用方法：自分自身の実践能力の現状確認(チェック)と、未到達項目の能力獲得に向け計画を作成する。

#### **【OJTでの活用】**

- ①保健師の実践能力の確認をする
- ②保健師と指導保健師が保健活動についてコミュニケーションを図る
- ③各所属における現任教育のあり方を考える機会とする

＜岐阜県保健師ステップアップ研修の流れ＞

時 期	保健医療課	保健所	所 属		
			受講者	指導者	
前 期	5～6月	受講生募集・研修通知 事前レポート作成依頼	市町村支援 (保健所実習指導者研修)	事前レポート作成 (現在実施している事業の評価)	職場での 現任教育 助言・指導 (コメント記入)
	7月			↓	
	8月中旬	事前レポート受理		事前レポート提出	
	9月前半	<b>前期研修(集合研修)</b>			
	10月	中間レポート作成依頼		中間レポート作成	
	11月			↓	
	12月		フォローアップ研修の調整 通知	中間レポート提出	
	1月	中間レポート受理し保健所へ送付	中間レポート受理		
	2月		<b>フォローアップ研修 (圏域等の保健所で実施)</b>		
	3月	実績報告受理	実績報告提出		
後 期	4月	所属・保健事業計画変更確認 再レポートの提出依頼		(再レポート作成)	
	5月	再レポートの助言依頼		(再レポート提出)	
	6月				
	7月				
	8月				
	9月				
	10月				
	11月	後期研修通知 後期レポート作成依頼		後期レポート作成	
	12月			↓	
	1月	後期レポート受理		後期レポート提出	
2月	<b>後期研修(集合研修)</b>				
3月	研修まとめ		研修の復命		

<ステップアップ研修前期スケジュール・ねらい等>

	時間等	会場	方法等	ねらい
1 日 目	9:30～ 9:45	講義室 →各演習室 へ	■オリエンテーション（スケジュール・ねらい等） ・スタッフ紹介	
	9:45～16:00	各演習室	■グループワーク① 『地域の健康課題、健康に関わるニーズの把握と 保健活動の展開について』【レポート1】 ・順に検討したい保健事業を紹介し、保健事業で解決したい地域の健康課題やその根拠となる実態の整理や今後の事業展開等についてグループで意見交換する	・現在実施している事業をとりあげ、その事業に関連する健康指標、生活実態、社会資源等の地域の実態を把握・分析し、事業の評価を行う。
	※各グループで、適宜、休憩や昼食時間（1時間）をとりながらすすめ			
2 日 目	9:30～10:30	各演習室	■グループワーク①の続き	
	10:30～12:00	各演習室	■個人ワーク 振り返りと計画 ・次年度の保健事業に向けて課題の整理 ・保健事業の計画	・意見交換や助言を経て、改めて自分の考えを整理し実践計画をたてることができる
	12:00～13:00	(昼食)		
	13:00～14:30	各演習室  →講義室へ	■グループワーク 保健事業計画の立案について等個人ワークの概要や研修で学んだことをグループ内で発表 ・順に個人ワークでまとめた概要をグループ内で発表する ・研修で学んだこと、今後の課題や目標をグループ内で発表する	・メンバーのまとめを共有する ・個人ワークの学びを後期の研修につなげる ・メンバーの学びを共有する
	14:30～14:40	(休憩・移動)		
	14:40～15:30	講義室105	■全体発表 ・2日間の研修で学んだこと等を、各グループの代表が全体に発表する	・各グループでの学びを共有する ・本研修の学びを後期の研修につなげる
15:30～16:00	講義室105	■チェックシートの説明、記入 「新任保健師の実践能力到達目標チェックシート」の活用について		

※2日目 16:00～17:00 指導保健師のミーティングを実施

<ステップアップ研修後期スケジュール・ねらい等>

時間等	会場	方法等	ねらい
9:30～ 9:45	講義室105	<b>■オリエンテーション</b> ・本日のスケジュール・ねらい・前回の振り返り等。	
9:45～15:00	各演習室	<b>■グループワーク</b> 『地域の健康課題、健康に関わるニーズの保健事業化とその評価』	
		・地域の健康課題等に沿った保健事業の展開になっているか、グループで意見交換する。 (1事例あたり30分程度)	・研修で取り上げた保健事業とその実践結果や評価について振り返り今後の保健活動の展開に活かす。
15:00～16:00	各演習室	<b>■個人ワークとグループワーク</b> 個人とグループにより学びのまとめをおこなう	
		・各々が保健事業の展開の仕方について振り返る。 ・前期、後期の研修を通しての学びと今後の自己課題についてまとめる。	・意見交換や助言を経て、改めて自分の考えを整理し、今後の保健活動の自己課題を明らかにすることができる。
(講義室へ移動)			
16:00～16:15	講義室105	<b>■全体発表・まとめ</b>	
		・前期、後期の研修での学び、今後課題としたいこと、感想などについて発表する。(1グループ1人)	・他のメンバーの学びを共有する。 ・本研修の学びを今後の保健活動につなげる。
16:15～16:30	講義室105	<b>■チェックシートについて</b>	

※16:30～17:15 指導保健師のミーティング (演習室104)

## 参考

### ステップアップ研修 前期研修で使用するレポートについて

下記により「レポート」を作成し、期限までに提出してください。

●現在、実施している保健事業の評価を行います。

検討したい事業について、下記の各項目を入れて、内容がわかるようにレポートを作成してください。

#### <前期レポート>

所 属	(市町村名から明記)	受講者氏名	
1. 今回の研修の対象として取り上げた保健事業とその理由 2. 所属市町村(または受け持ち地区)の概要 3. 保健事業で解決したい地域の健康課題および健康課題であると考えた根拠(背景)となる実態 4. 事業の概要 ①事業の目的、今年度の目標、計画、事業の必要性 ②今年度の実施経過と評価(まだ評価できない場合は評価指標等記入) ③昨年度までの実績と評価 ④他の保健事業との関連について など			
<h4>&lt;指導者の指導・助言&gt;</h4> <p>・受講者が保健事業の評価を行う(レポート作成)にあたり、職場で行った助言等を記入してください。コメントを記載いただくのみでなく、受講者とともに事業を振り返り、必要に応じレポートに修正を加えるなどご指導くださるようお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">指導保健師名： _____</p>			

#### <受講者の方へ>

※計画の作成にあたり、以下のことを確認し計画に反映させてください。

- 健康課題や事業の必要性については明確に記載されているか
- 表やグラフのデータは、わかりやすく記載しているか

※その他レポート作成の注意点

- ・Excel等で作成したデータは、別紙ではなくレポート内(Word)に記載

提出期限：平成 年 月 日( )

提出先：保健医療課 ○○○○ 宛 ※必ず電子メールで送付願います。

※提出レポートのファイル名は【ステップ前期(市町村名)氏名】としてください。

## ステップアップ研修 後期研修で使用するレポートについて

所 属	(市町村名から明記)
受講者氏名	
事 例	<input type="checkbox"/> 前期と同様 <input type="checkbox"/> 変更有(変更理由： )
担当業務	<input type="checkbox"/> 昨年と同様 <input type="checkbox"/> 変更有

### <保健事業実践結果・評価>

1. 地域の健康課題(健康ニーズ)
2. 保健事業名
3. 目標(ねらいを明確にする) 4. 対象、対象者数(対象にした理由)
4. 対象と対象者数
5. 母集団(例:A地区の乳児をもつ保護者)
6. 内容と方法
7. スタッフ(役割)、間機関との連携等
8. 予算
9. 行政の基本計画又は各種保健計画との関連(位置づけ)
10. 評価の結果

### <指導者の指導・助言>

- ・受講者が保健事業の企画立案から実践、評価するにあたりおこなった助言

指導保健師名： \_\_\_\_\_

### <受講者の方へ>

※計画の作成にあたり、以下のことを確認し計画に反映させてください。

- 地域の健康課題、健康ニーズの把握から企画、実践、評価に至るプロセスの視点でまとめているか
- 表やグラフのデータは、わかりやすく記載しているか
- 前期研修、フォローアップ研修で助言を受けた事項の確認

※その他レポート作成の注意点

- ・レポートは、A4縦サイズ、Wordで作成
- ・Excel等で作成したデータは、別紙ではなくレポート内(Word)に記載

提出期限：平成 年 月 日( )

提出先：メールアドレス(保健医療課 ○○○○ 宛)

※必ず電子メールで送付願います。

※提出レポートのファイル名は【ステップ後期(市町村名)氏名】としてください。

## フォローアップ研修で使用する中間レポートについて

### 保健事業計画

所 属	(市町村名から明記)	氏 名	
連絡先	TEL	e-mail	

#### <健康課題とその背景となる実態>

- **保健事業で解決したい地域の健康課題、地域の健康ニーズは何かを明記してください。**
- ・ 地域の健康課題であると考えた根拠(背景)となる実態(データ等)を記載(添付)してください。

#### <計画の内容>

1. 保健事業名
2. 目標(ねらいを明確にする)
3. 対象、対象者数(対象にした理由)
4. 母集団(例:A地区の乳児をもつ保護者)
5. 内容と方法
6. 実施期間・回数
7. 評価のしかた
  - ・ 目標の達成は何によって確認するか
  - ・ 評価についての観点や指標、評価時期や方法などを明らかにしておく
8. 従事者の人数、職種
9. 予算

#### <指導者の指導・助言>

- ・ 受講者が保健事業の企画立案するにあたりおこなった助言等

指導保健師名: \_\_\_\_\_

#### <受講者の方へ>

※計画の作成にあたり、以下のことを確認し計画に反映させてください。

- 事業と地域の健康課題がつながっているか
- 保健事業のもとになる(事業を包括している上位計画)対策・施策の全体像とその目的
- 事業の裏付けとなる法令・通知等
- 前期研修で助言を受けた事項の確認

※その他レポート作成の注意点

- ・ A4縦サイズ、Wordで作成(Excel等で作成したデータは、Wordに添付)

提出期限 : 平成 年 月 日 ( )

提出先 : メールアドレス(保健医療課 ○○○○ 宛)

※必ず電子メールで送付願います。

※提出レポートのファイル名は【ステップ中間(市町村名)氏名】としてください。



### 3 中堅期の研修（中堅後期保健師研修）

#### 1 中堅後期研修の特徴

多様化複雑化した健康課題の解決に向けて保健師の役割が求められる中、中堅保健師には事業推進の中核的な役割を担うとともに、市町村や関係機関との連携や協働、また新任保健師の教育等、高度な能力が求められている。このような背景を受け、平成26年度より岐阜県保健師研修体系に「中堅後期保健師研修」を位置づけ岐阜県保健師を限定して実施している。

「岐阜県保健師のキャリアラダー2」＜専門職としての能力＞の中でもステップアップ研修の「地域診断能力」「計画・立案・実施・評価」に加え「連携・調整、社会資源の開発能力」をターゲットとした研修である。

#### 2 中堅後期研修の実施

##### 【目的】

- ・保健所中堅期保健師の育成と能力向上による、保健所保健師の機能強化を目指す。
- ・モチベーションを向上し、保健師としてのアイデンティティを強化する。

##### 【目標】

- ・業務を担当する中で、地域に潜在する健康課題を把握分析できる能力を高め、事業を企画・立案するための能力を形成する。そして、新たな政策として提示できる能力を強化する。

##### 【対象】

- (1) 概ね実務経験年数11年～20年程度の岐阜県保健所保健師等
- (2) 上記以外で、自ら受講を希望する又は所属の推薦を受けた岐阜県保健所保健師

##### 【時期】

- ・当該年度5月～翌年3月

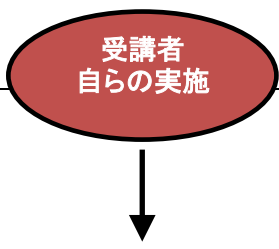
##### 【内容】

- ・地域の健康課題に基づく事業企画の立案、プレゼンテーション
- ・テーマ設定：受講者は母子保健、生活習慣病予防、精神保健、感染症予防等、各担当業務における保健活動上の課題であり、実際に取り組むことのできる1テーマを選択する。

##### 【その他】

- ・中堅後期保健師を育てる支援体制等の環境づくりを推進するため、指導保健師として、各保健所の技術課長補佐等の保健師が助言、指導にあたる。

<中堅後期保健師研修の流れ>

時期	内 容		受講者
5月	受講生決定		
6月	<b>全体研修</b>	○研修の概要について ・研修の目的 ・中堅後期保健師の役割 ・研修の進め方 ○講義 ・公衆衛生看護活動の展開、評価等(案)	
7月			<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">           ○実践計画作成(様式1)            ①地域データ等の整理・課題分析            ②法的政策的情報整理            ③これまでの取り組みの現状と課題            (既存の事業、関連保健事業等)         </div> 
8月	<b>中間報告会</b>	○テーマ設定、実践状況の報告、情報交換 ①担当する地域の健康に関するデータ等の整理・課題分析 ②法的施策的信息整理 ③これまでの取り組みの現状と課題 (既存の事業、関連保健事業等)	
9月			<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">           ④対象者の実態、新たなデータ収集(訪問、聞き取り調査、事例検討等)            ⑤関係する機関・者からの情報            ○実践            ・①～⑤の実施            ・課題抽出            ・実施計画(次年度)            ○報告書の作成         </div>
10月			
11月			
12月			
1月			
2月	<b>全体報告会</b>	○保健事業計画、内容の発表 (組織への政策提言のプレゼンテーション)	
3月	報告書作成	○報告書の作成	

<様式1 実践内容記入シート>

提出日：平成 年 月 日

氏名（所属）：

I 実践テーマ（タイトル）

・実践が可能なテーマに絞ってご記入ください。

<選定した理由>

II 実施内容

1. 担当する地域の健康に関するデータ等の整理・課題分析

- ・本研修で、あなたが取り組む実践テーマを中心に、基本となるデータや、実践テーマに関連する当該地域の社会資源の状況、課題と考える根拠となるデータやご自身の問題意識がより明確になるようなデータを記載してください。
- ・前述の実践データを、ご自身がどのように読み取っているのかもご記入ください。

2. 法的施策的情報整理

- ・あなたが取り組むデータに関連、もしくはご自身の実践に関連して活動の根拠となる法令、通知、要綱等や指針、県や保健所の実施要綱など、それをどう判断して実践に反映させているか、理解している範囲でご記入ください。

3. これまでの取り組みの現状と課題（既存の事業、関連保健事業等）

- ・あなたが取り組むテーマについて、これまでの保健所等の取り組みの総括（経緯や要点を短くまとめたもの）、経緯や実施内容、関連事業も含めて確認しながら、ご記入ください。
- ・その際、対象者の反応、事業の評価、自組織の活動実績、振り返り等、課題も含めてご記入ください。

4. 対象者の実態、新たなデータ収集（訪問、聞き取り調査、事例検討等）

- ・あなたが取り組むテーマの対象者に、これまでの保健事業（保健サービス）に対する意見や思いを確認し、事業実施者の企画・ねらいと照らし合わせるなど・・・
- ・聞き取りを通して、これまでの活動のあり方や事業の評価を行なう。

5. 関係する機関・者からの情報

- ・あなたが取り組むテーマに関連する組織、関係者に、現状の取り組みや課題認識など情報収集し、自身の視点との違いなど確認し、組織の全体的な課題を把握するなど・・・

III 保健事業の企画・立案（プロセスとして①～⑤を踏まえ）

1. 活動目的

2. 活動方法

3. 活動の評価指標（インプット・アウトプット・アウトカム）

※別途、組織への政策提言のプレゼンテーション資料作成

IV 考察

V あなたの研修を通して中堅保健師として見えてきた役割や課題

<様式2 保健事業企画書（組織への政策提言資料）>

提出日：平成 年 月 日

氏名（所属）：

## 4 リーダー期・管理期の研修（保健師管理者研修）

### 1 保健師管理者研修の特徴

管理的立場に就く保健師が増えてくる中、平成 23 年度から現状や課題、抱えている悩みなどの意見交換を繰り返しながら、平成 25 年度から管理的立場の保健師の役割やあり方などの理解を目的に研修会を開催している。

### 2 保健師管理者研修の実施

#### 【目的】

保健師管理者の果たすべき役割や求められている力について理解し、効果的な保健活動を組織的に展開するための資質の向上を図る。

#### 【目標】

統括保健師の役割と求められる能力を理解し、各所属におけるあり方を考えることができる。

#### 【時期】

年度内に 1 回開催することとし、時期は問わない。

#### 【対象】

岐阜県・市町村に所属する管理的立場のある保健師  
各部署の係長、リーダー等も含む

#### 【研修内容】

統括保健師の役割と求められる能力を踏まえ、必要な研修を実施する。

（役割）

1. 保健師の保健活動の組織横断的な総合調整及び推進
2. 技術的及び専門的側面からの指導及び調整
3. 人材育成の推進

（能力）

1. 組織横断的な調整や交渉を行い、保健活動を総合的に推進する能力
2. 保健師としての専門的知識・技術について指導する能力
3. 組織目標等に基づき保健師の人材育成体制を整備する能力

（「役割」及び「能力」については、厚生労働省健康課「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会 最終とりまとめ」（平成 28 年 3 月 31 日発）抜粋）

## 5 保健師指導者研修

### 1 保健師指導者研修の特徴

平成 25 年度までは、保健医療課が実施主体となり、看護系大学の卒業生が増える背景の中で、各自治体における指導的立場の保健師が大学教育の実際を知り、大学教員との意思疎通や相互理解を図ることなどを目的に「実習等指導保健師研修」を開催していた。

当初の目的が浸透してきた中で、次第に所属による指導体制の現状や考え方の違いが明らかとなってきたことや、集合研修による講義形式による研修の持ち方への限界も感じ、平成 26 年度からはより所属の実態に合わせた検討が行えるよう、保健所を単位とした身近な関係の中で行うよう変更した。

### 2 保健師指導者研修の実施

#### 【目的】

保健所における新任保健師等の指導者としての指導力向上と市町村保健師の人材育成を担う役割の機能を強化することを目的に実施する。

また、当研修会を保健師の専門性を養う保健師現任教育の一環として位置づける。

#### 【目標】

- ・保健師現任教育の基本的な考え方について考える。
- ・新任保健師等への指導の役割を学ぶ。
- ・市町村における現任教育の充実をめざし、保健師としての質を向上させる。
- ・地域の保健師が交流し、ネットワークを推進する。

#### 【実施主体】

- ・各県保健所(対象者数により圏域での開催)

#### 【対象】

- ・新任保健師(1～3年)が配属された保健所及び市町村の指導保健師
  - ・ステップアップ研修受講保健師の保健所及び市町村の指導保健師
  - ・上記以外で、本研修を希望する保健所及び市町村の保健師
- ※ただし岐阜市は除く(岐阜市は独自に実施)

#### 【期間】

年間を通して実施する

#### 【内容】

- ・岐阜県保健師現任教育マニュアルについて
- ・新任保健師の実践能力到達目標チェックシートから見える新任保健師の特徴
- ・現任教育に関する検討(基本的な考え方、指導体制のあり方等)
- ・指導保健師に期待される役割について
- ・指導保健師の情報交換

## 選択研修について

体系的に人材育成を進めていく中で、担当業務に関連した研修の受講や、保健師活動を取り巻く情勢に応じた研修の受講を進めている。

### 県外研修

#### <管理者>

- ・保健師中央会議
- ・全国保健師長会研修会
- ・市町村管理者能力育成研修事業

#### <人材育成>

- ・全国保健師交流集会（看護協会）
- ・東海北陸ブロック保健師等研修会

#### <母子保健>

- ・母子愛育会による研修

#### <生活習慣病>

- ・生活習慣病対策健診・保健指導に関する企画・運営・技術支援研修

#### <感染症>

- ・エイズ対策研修（保健医療科学院）
- ・結核研修（結核研修所）

#### <精神保健>

- ・こころのケア研修会

#### <災害保健>

- ・原子力災害研修（放射線医学研究所）
- ・放射線基礎知識（原子力安全研究協会）

#### <その他>

地域包括ケア研修会（看護協会）

等

### 県内研修

- ・県主催の各業務に関する研修会
- ・県看護協会（職能委員）による研修会
- ・国保連合会主催による研修

等